果樹特報

No.7

平成 24 年 6 月 29 日
ＪＡ中野市営農センター
ＪＡ中野市りんご・もも部会

引き続き、高温・多湿条件で感染が拡大する輪紋病・炭疽病・褐斑病の最重要防除期となります。

この梅雨期に散布間隔が空いてしまうと、病気の感染拡大が進み、成熟期の果実被害（腐敗）の要因となります。定期防除の散布間隔は概ね 14 日として進めますが、雨が続く予報が出た場合は、予定より前倒して（7～10 日間隔）散布を進めましょう！詳しくは下記の内容によりますが、不明な点は営農センター担当までお問い合わせください。

りんご　7 月上旬の散布（前回より 15 日後）

散布時期：7 月 5 日～10 日（6 月中下旬の定期散布が遅れた場合は、前倒しで散布すること）

＊雨が続く場合は、前回からの散布間隔を 10 日とする。＊注意事項①参照

散布薬剤：水　１００ﾘｯﾄﾙ

展着剤	１０ml	＊注意事項③参照
コロマイト乳剤	１００ml	（前日、1 回）
劇 バイスロイドＥＷ	５０ml	（7 日前、4 回）
オキシラン水和剤	２００g	（14 日前、4 回）
スイカル	１００ｇ	

散　布　量：10a 当り　600 ﾘｯﾄﾙ

散布日	月	日
散布量		ﾘｯﾄﾙ

対象病害虫：輪紋病、炭疽病、斑点落葉病、褐斑病

シンクイムシ類、ハマキムシ類、ハダニ類、キンモンホソガ、ギンモンハモグリガ

注意事項＊必ずお読みください。

① 輪紋病・炭疽病・褐斑病の最重点防除期となります。今回の散布は遅れないように進める。尚、予防散布を前提としているので、上記の散布目安日より前倒しても良い。

② 前年、褐斑病が発生した園地では、トップジン M 水和剤 1500 倍（前日、6 回）を加用散布する。

③ 梅雨期における防除では、展着剤としてアビオン E の 1000 倍（100 ﾘｯﾄﾙに 100ml）を使用すると効果が高い。

④ 雨が多く輪紋病・炭疽病の発生が心配される場合は、ic ボルドー412 の 33 倍を 7 月初旬に特別散布する。ただし、つがる等の早生種にはボルドー液は散布しない。詳しくはお問い合わせください。

⑤ 殺ダニ剤の効果を高めるために、徒長枝切りや下草除草を予め実施しておくこと。

✧ **仕上げ摘果について**

① 面積、樹齢、樹勢（弱いものは早く）、凍霜害の程度等によって変わってくるが目安として
仕上げ摘果の順序は、秋映・王林　→　スイート・ゴールド　→　つがる　→　ふじとする。

② スイート、ゴールドは大玉（樹勢強い）場合と小玉（樹勢弱る）が極端なので、摘果時期は樹勢を見ながら順序を決定する。また、隔年結果防止の為に着果過多には十分注意すること。

③ ふじの仕上げ摘果は 7 月上旬頃までに実施し、7 月下旬～8 月中旬までに小玉・変形果等を除去する見直し摘果を進めること。

✧ **下草の除草**⇒除草剤を使用する場合は、バスタ液剤を使用すること。

10ａ当り	バスタ液剤 500ml	水量 100～150 ﾘｯﾄﾙ

【もも・ネクタリンの定期散布は裏面をご覧ください】

【注意】今後は梅雨期の本格的な降雨が予想されます。散布間隔を空けすぎないよう実施しましょう。
また、収穫前や収穫中の作物への飛散に充分注意してください。

もも　７月上旬の散布（前回より１４日後）

散布時期：　７月５日～１０日

＊降雨が連続する場合は、予定より散布時期を早めましょう。

散布薬剤：(混用順)

水	１００リットル
展着剤	２０ml
デランフロアブル	１６６ml（７日前、４回）
ダコニール 1000	１００ml（前日、６回）
劇 ダイアジノン水和剤３４	１００g （前日、４回）

散　布　量：１０ａ当り　６００リットル

対象病害虫：**せん孔細菌病**、灰星病、黒星病
シンクイムシ類、ハマキムシ類、クワコナカイガラムシ幼虫

【注意事項】

＊ダコニール 1000、ダコレート水和剤は除袋直後に使用すると薬害を生じる恐れがあるので注意する。

① (カイガラムシ類)の発生園は、スプラサイド水和剤 1500 倍（21 日前、4 回）を特別散布する。ただし、収穫前規制に注意する。

② カメムシ類（コガネムシ類）の発生園はダントツ水溶剤 4,000 倍（7 日前、3 回）を特別散布する。

③ ハダニ類の発生園は、カネマイトフロアブル 1,000 倍（７日前、１回）を散布する。

次回散布予定：７／１９～

散布日	月　日
散布量	リットル

ネクタリン　７月上旬の散布（前回より１４日後）

散布時期：　７月５日～１０日

＊降雨が連続する場合は、予定より散布時期を早めましょう。

散布薬剤：(混用順)

水	１００リットル
展着剤	２０ml
ダコニール 1000	１００ml （前日、２回）
ダントツ水溶剤	２５g （３日前、３回）

散　布　量：１０ａ当り　６００リットル

対象病害虫：灰星病、黒星病
シンクイムシ類、モモハモグリガ、カメムシ類、コガネムシ類

【注意事項】

＊ダコニール 1000、ダコレート水和剤は除袋直後に使用すると薬害を生じる恐れがあるので注意する

①ハダニ類の発生園は、コロマイト乳剤 1000 倍（7 日前、1 回）を散布する。

次回散布予定：７／１９～

散布日	月　日
散布量	リットル

【当面の管理】

- **仕上げ摘果、袋掛けを進めましょう。**
- **せん孔細菌病発生園では、引き続き、せん孔細菌病「春型枝病斑」の切除を徹底的に行ってください。**
- **薬剤散布は、間隔を空けすぎないよう注意しましょう。**
  ⇒今後は、病害虫の多発が予想されています。予防散布に努めましょう。
- **下草管理　　園内除草を徹底しましょう。**
  除草剤使用基準・・・10ａ当り　バスタ液剤 500ml　　水量 100～150 リットル

農薬（毒物・劇物）をお買い求めの際には、印鑑をご持参ください。